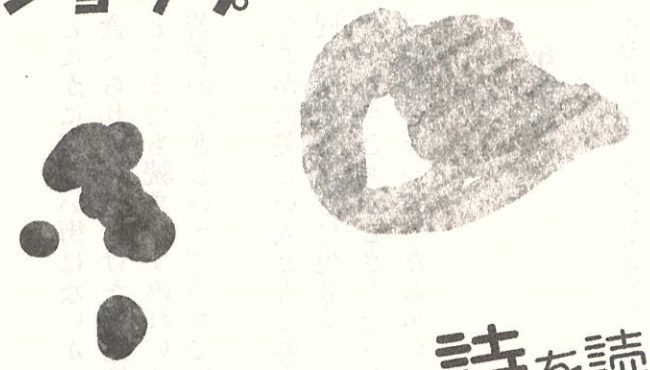
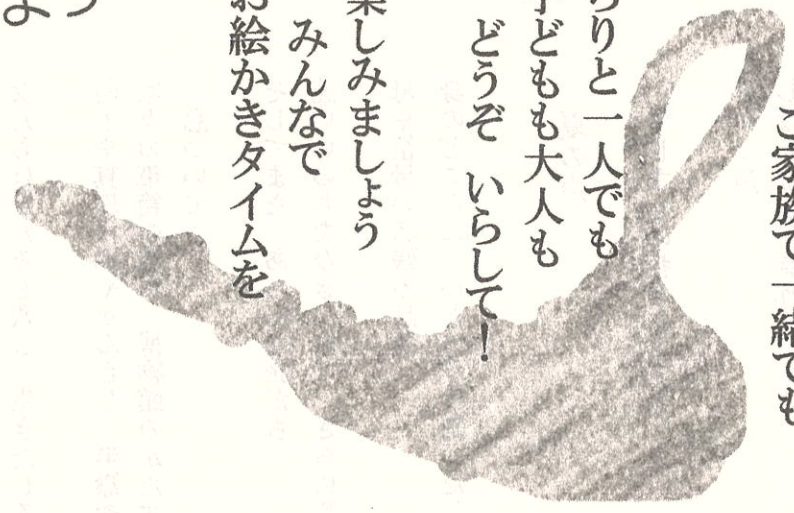
ワークショップ



2024年
5/19(日)
14:00～16:00
柳沢公民館第2会議室

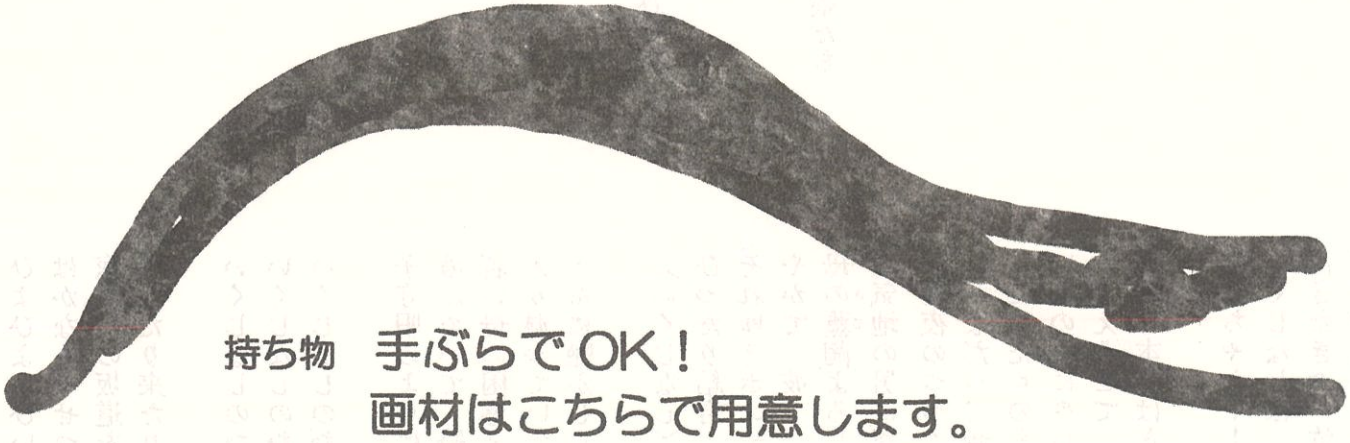
いばらぎ茨木のり子さんの詩を読んで絵にしてみよう

お友だちと一緒でも
ご家族で一緒でも
ふらりと一人でも
子どもも大人も
どうぞ いらして！
楽しみましょう
みんなで
お絵かきタイムを



●3つの詩からえらんで
「六月」
「娘たち」
「夏の声」
＜裏をご覧ください＞

●自由に
お好きな茨木のり子さんの詩を



持ち物　手ぶらでOK！
画材はこちらで用意します。

★よごれてもいい服できてください。
★時間内にご自由にお描きください。

作品はお預かりして記録冊子作成の予定です。

主催：茨木のり子の家を残したい会　　代表　小田桐孝子

連絡先　柳田　☎ 042-461-3246

六月

どこかに美しい村はないか
一日の仕事の終りには一杯の黒麦酒
鍬を立てかけ　籠を置き
男も女も大きなジョッキをかたむける

どこかに美しい街はないか
食べられる実をつけた街路樹が
どこまでも続き　すみれいろした夕暮は
若者のやさしいさざめきで満ち満ちる

どこかに美しい人と人との力はないか
同じ時代をともに生きる
したしさとおかしさとそうして怒りが
鋭い力となって　たちあらわれる

娘たち

イヤリングを見るたびに　おもいます
縄文時代の女たちとおんなじね

ネックレスをつらねるたびに　おもいます
卑弥呼(ひみこ)のころと変わりはしない

指輪はおろか腕輪も足環もありました
今はブレスレット　アンクレットなんて
　気取ってはいるけれど

頬紅を刷(は)くたびに　おもいます
埴輪の女も丹(に)を塗りたくったわ

ミニを見るたびに　おもいます
早乙女(さおとめ)のすこやかな野良着スタイル

ロングひるがえるたびに　おもいます
青丹よし奈良のみやこのファッションを

くりかえしくりかえす　よそおい
波のように行ったり　来たりして

波が貝殻を残してゆくように
女たちはかたみを残し　生きたしるしを置いてゆく

勾玉や真珠　櫛やかんざし　半襟や刺子
家々の箪笥の奥に　博物館のかたすみにひっそりと
　息づいて

そしてまた　あらたな旅だち
遠いいのちをひきついで　さらに華やぐ娘たち

母や祖母の名残の品を
身のどこかに　ひとつだけ飾ったりして

夏の声

いくじなしのむうちゃん！

という声
しばしばと目覚れば
時計は午前の一時である
赤ん坊の泣き声は

ひよひよ　ひいひい
はかなく　せつない
家の前の坂道を
行ったり来たりして

いくじなしのむうちゃん！
いくじなしのむうちゃん！
いくじなしのむうちゃん！

子守唄のように続くそれは
澄んでいて　綺麗
若い母の困惑と　いとおしさとが
入り混っていて
へんに艶かしくもある

〈いくじなし〉と〈むうちゃん〉は
ぴったり結合　ぬきさしならず
それゆえポエチカルでもあるのだが
やがて　彼
母の薫陶(いきじ)よろしきを得て
意気地の男になるんだろうか
熱帯夜のつづく日本の夏は
おとなだって音をあげる
着て寝たものも
いつのまにやらどこへやら
と消えうせて
団扇一本　はたり　はたり

むうちゃんや！
いくじなしは　いくじなしのままでいいの
泣きたきゃ　泣けよ
意気地なしの勁さを貫くことのほうが
この国では　はるかに難しいんだから